

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

## 4、各字のポイント

**翹** 偏の横画四本の長さ・方向が皆異なる。しかも下にゆく程右肩上がりが強くなる。「羽」の部分は狭く。

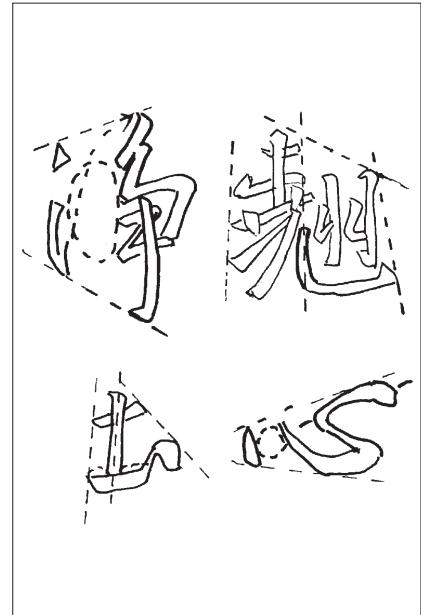
**心** 一画目と二画目は間をあけ、二画目は取筆に向かって引き上げ、二つの点は、右側の点を少し上に。

**淨** 偏と旁の間は広くあける。旁の一画目と二画目では方向を少し変え、旁は偏に比して大きく書す。

**土** 二画目は一画目の中心を通り、三画目の横画の中心より左に。画目の点で左右の余白のバランスを取る。



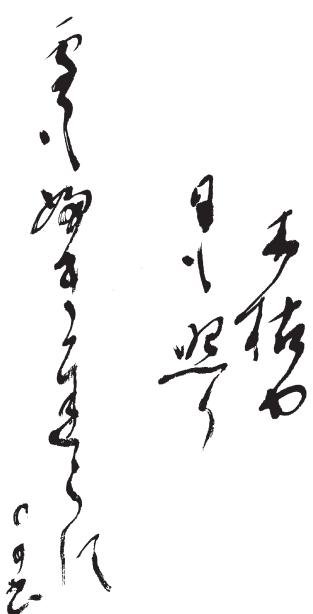
- 1、字句＝翹心淨土
- 2、形式＝半紙タテ使用。右に「翹心」、左に「淨土」と臨書し、左余白に「〇〇臨」と調和を工夫して書き入れる。
- 3、概観＝蘭亭序には、「之」の字が二十字も用いられており、しかも、ひとつとして同じものがないと言っている。これは、王羲之の表現が一本調子でなく、高い境地にあった例として引用されている。「集字聖教序」では、「之」の字が四十四字、「不」の字が二十三字ある（私の数え間違いがなければ）。「集字聖教序」が集字碑であり、「蘭亭序」の文字が多く使用されていることを考えると、王羲之の書を知りつくした懷仁は、これら全てに同じものがないとは言わないが、見事に選択している。



集字聖教序・王羲之

## 半紙課題(予告) (十二月二十二日締切)

平岡華雪先生書  
訳：雪の寒江に独り舟を浮かべて釣をする。  
こがつ  
や日も照り雪も吹ちらす（樗良）



平岡華雪先生書 獨り釣る寒江の雪（柳宗元）

# 条幅部漢字課題参考 (十一月二十二日締切)

A 高橋香樹会長書

黄花紅葉満秋山 月浸銀河夜未闌  
(元詩選)

黄花紅葉秋山に満ち、月は銀河に浸され夜は未だ闌わならず。



B 鈴木静村先生書

今回も行草単体の作。行草書七字ずつに配分。一行目の中央部四字を行書にし、二行目後半四字を草書とした。「葉」・「満」は色々な崩しがあるので研究されたい。「未」は二画目の横画を一画目より長く。墨継ぎは「秋」と「夜」。



黄 行書頭部硬い感。葉 書体は字典で確認のこと。漫 又 を 丈 古典に多い。河 偏からの連綿、脈絡の気持ちが大切。未 下部一点の場合、縱画短く書譜に多い。

訳:菊花の季節、紅葉は秋の山に満ち、月は銀河に浸るが夜はまだ浅い。

予告 (十一月二十二日締切)

芳草苔苔没屢深

清和天氣潤園林 (方回)

- ◆注意
  - ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

# 条幅部かな課題参考 (十一月二十二日締切)

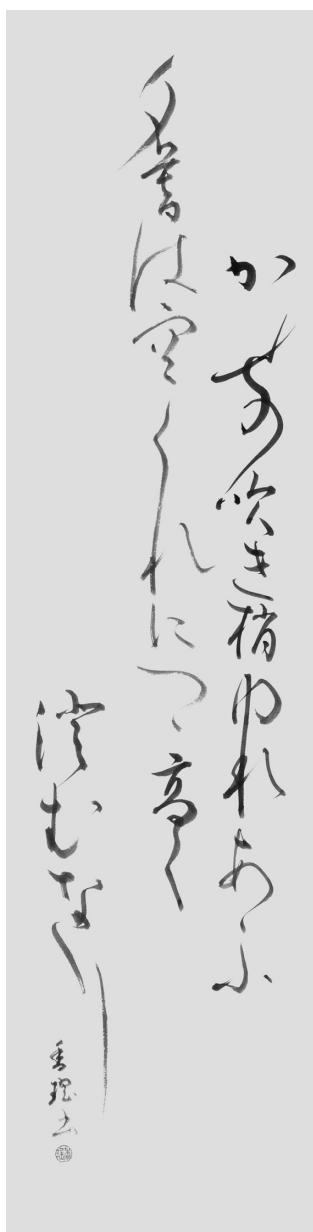
## 学び方

予告 (十一月二十二日締切)

あしひきの山の霞はたちまちに落葉のうへに音たてにけり (斎藤茂吉)

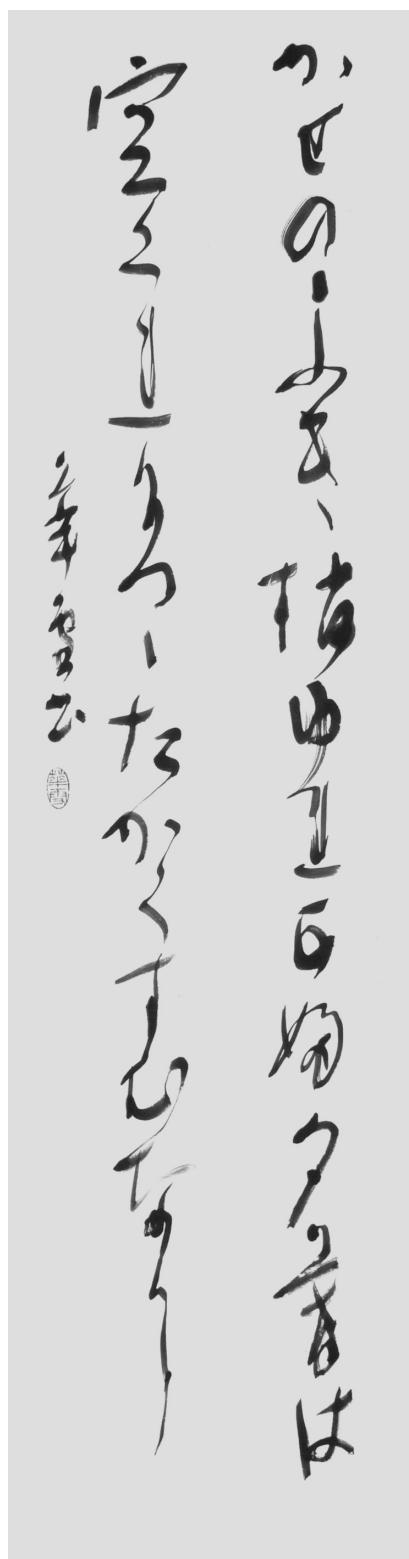
初秋のひとときを歌つたさわやかな歌。現代短歌ですので原文どおり変体仮名を使用せずに三行で書いてみました。  
但し、三行の行頭「風・夕・澄」を全て漢字にすると、少々重い感じなので、「風」だけは仮名にしました。「高く」で少し墨を入れ、行を離して呼応するように、「澄むなり」と続けました。

岡 麓 (一八七七~一九五二) 東京本郷生まれ。本名三郎。正岡子規門下生として学ぶ。子規直伝の写生を理論的に吹き込んだ洗練された都会的な作風。一九〇三年「馬醉木」編集同人となる。長塚節、斎藤茂吉らと「アララギ」に歌を発表。一九二六年処女歌集「庭苔」を刊行。一九四八年芸術院会員となる。歌集「庭苔」「湧井」「冬至」「岡麓著作集」等多数。



B  
内藤香瑠先生書

かせの吹き梢ゆれあふ夕暮は空くれにつ、高く澄むなり



A  
平岡華雪先生書

風の吹き梢ゆれあふ夕暮は空くれにつ、高く澄むなり (岡麓)  
かせのふき梢ゆ連あ婦夕暮は空久連尔つ、たかくすむなり

# 条幅部隨意参考

酒井香雨先生書

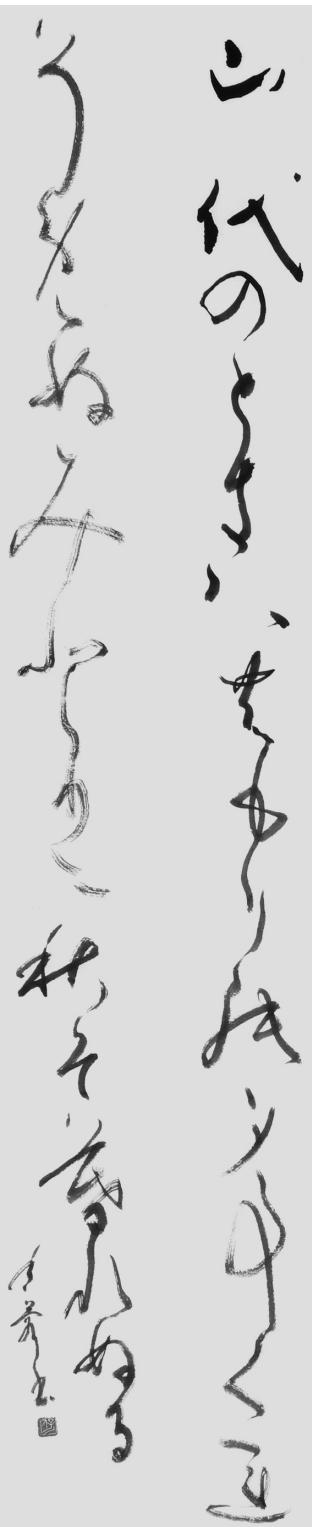
清霜碧潤松聲靜 急雨丹峰鶴唳多 (吳兆騫)  
清霜碧潤松声静に、急雨丹峰鶴唳多し。



訳：清き霜のおりたみどりの谷川の松風は静かで、しぐれる紅葉の峰には鶴の鳴き声が多い。

川上香蓉先生書

山代のときはの杜の夕しぐれ染めぬ  
山代のときはの夕しぐれ染めぬ 緑に秋ぞ暮れぬる (新勅撰和歌集 行意)



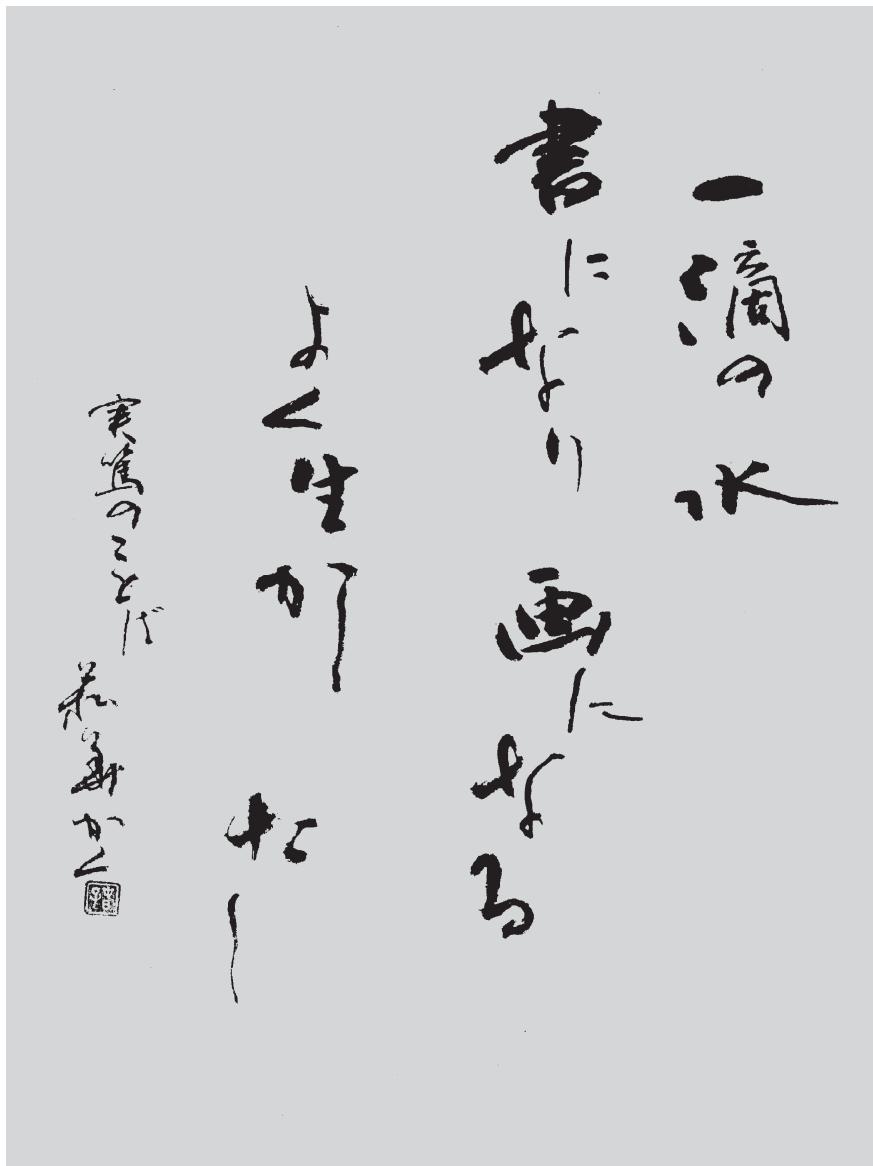
- ◆注 意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み (1) と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み ( ) に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

# 漢字かな交じりの書課題参考 (十一月二十二日締切)

小暮菘華先生書

一滴の水  
書になり画になる  
よく生かしたし  
武者小路実篤

- 短い詩なので一字一字の表現を大切に。墨量、太細、大小の変化をつける。
- 空間の処理(字と字の間隔を付けたり離したりする)
- 山場の「書になり…」の部分は、字や行の向きを工夫する。
- 皆さんの作品を楽しみにお待ちしています。



武者小路実篤（一八八五～一九七〇）小説家、詩人、東京生まれ。子爵家の末子。志賀直哉らと「白樺」創刊。六十年余に亘り、人生を考え、仕事に悩んだり、心を奮い立たせたいとき、癒したいとき、支えとなる名言を多数発表。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

谷鳥人を避けて啼く（盧之翰）  
訳：谷間の鳥は姿をかくしてさえずる。



〈主要点について〉  
行頭二字の左右の「払い」伸びやかに、画の接触、はみ出さないように。  
「避」の之繞はこの字の主画、勝負どころ——。「啼」末画のタテ画、五文  
字の総まとめ、スッキリ決めて。

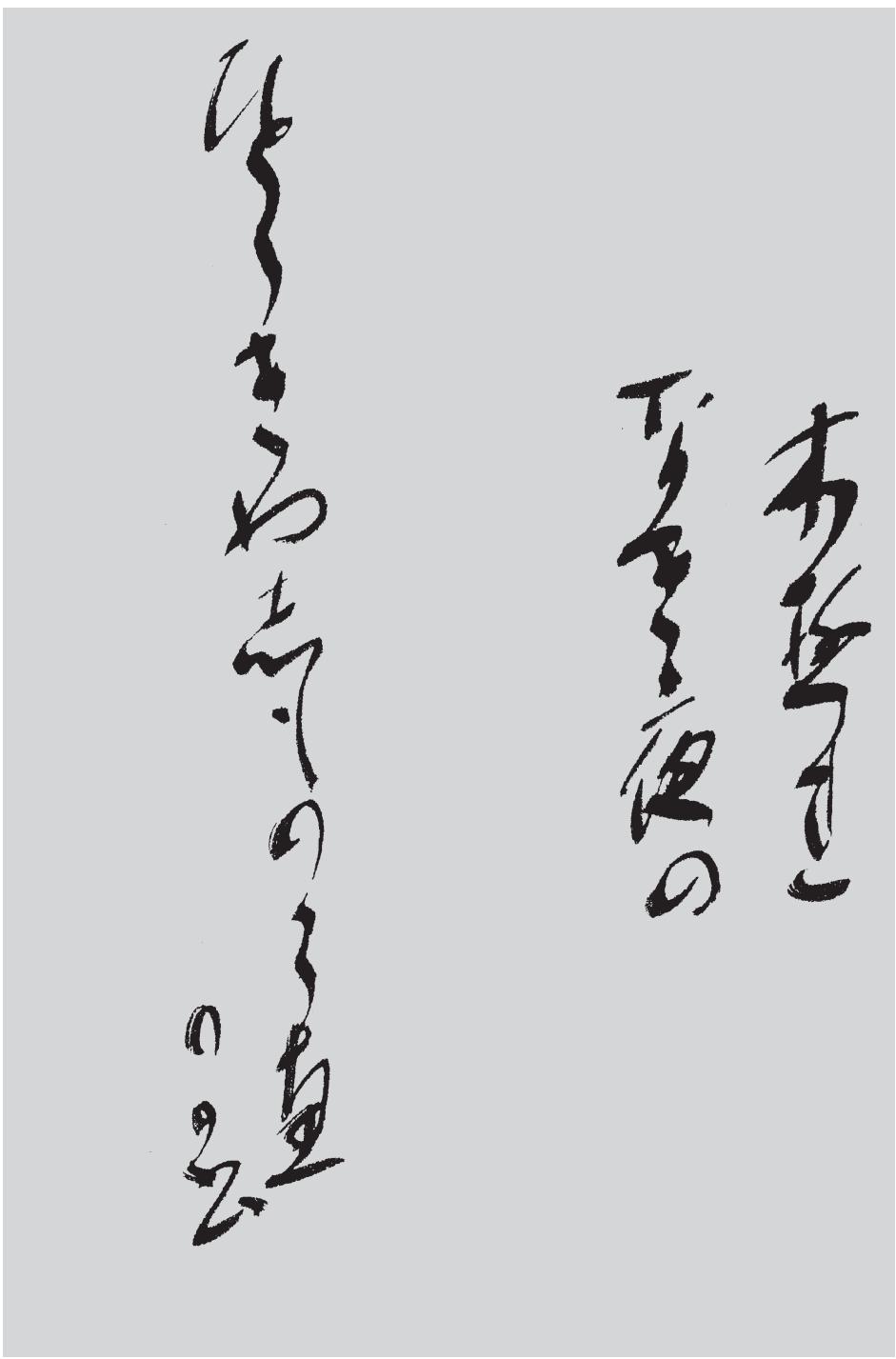
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。  
①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平 岡 華 雪 先 生 書

木揺れなき夜の一ときや霜の声（乙字）  
木遊連なき夜のひとときや志ものこ恵

〈注目点に挑戦して〉

華雪先生独自な散らし構成の一つ。ポイントは、右群末“中七”の文節「夜の」この辺りから渴筆に入る。この筆意を左群「ひとときや」に意連、さらに渴筆での五字連綿、この作の大きな山場——、この山場を盛り上げてほしい。

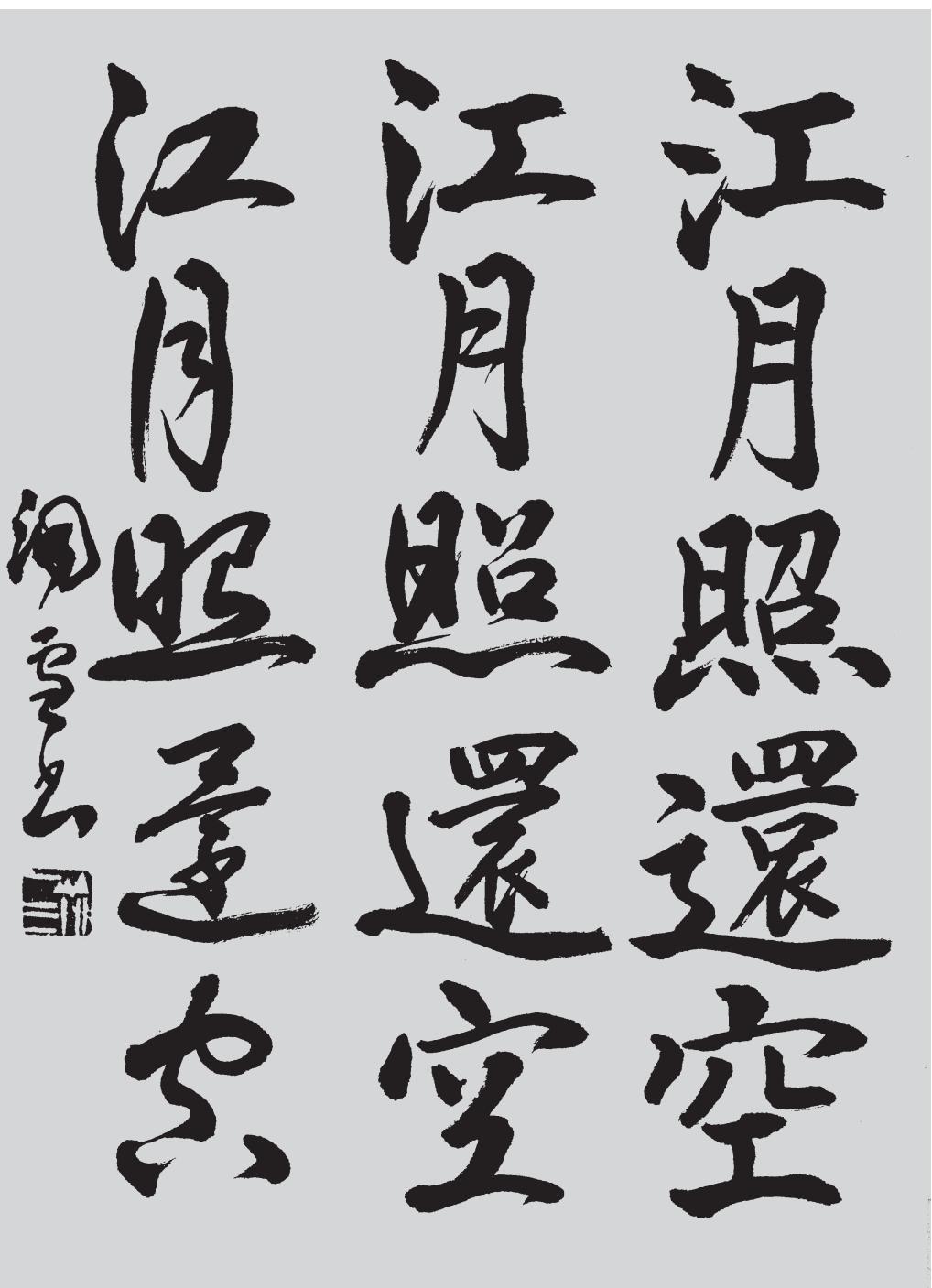


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。  
 ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

## 楷、行、草、三体参考

加藤洞雪先生書

江月照還空（李白）  
江月こうげつ  
照こうてらすも還まわた空むなし



訳：長江に輝く明るい月も、この“銀河”に注ぐ光は空しく碎け散る。

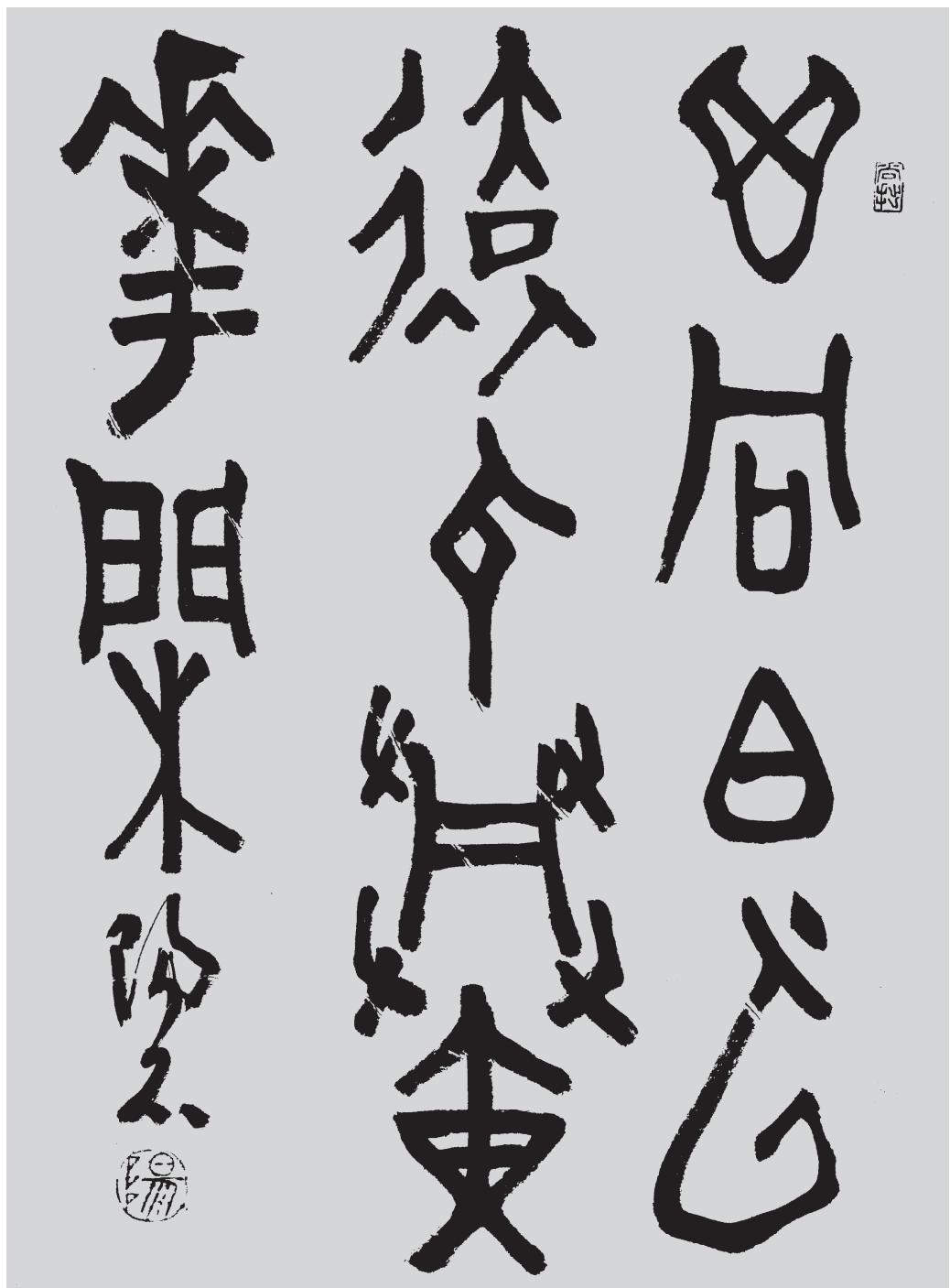
1. 隨意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は460円。

## 隨 意 部 參 考

難波陽石先生書

心同白雲遠 身與黃花閑 (胡助)  
心は白雲と同じく遠く、身は黃花とともに閑なり。

訳:心は秋の白雲と同じく世と縁遠いが、身は菊の花とともに清閑である。

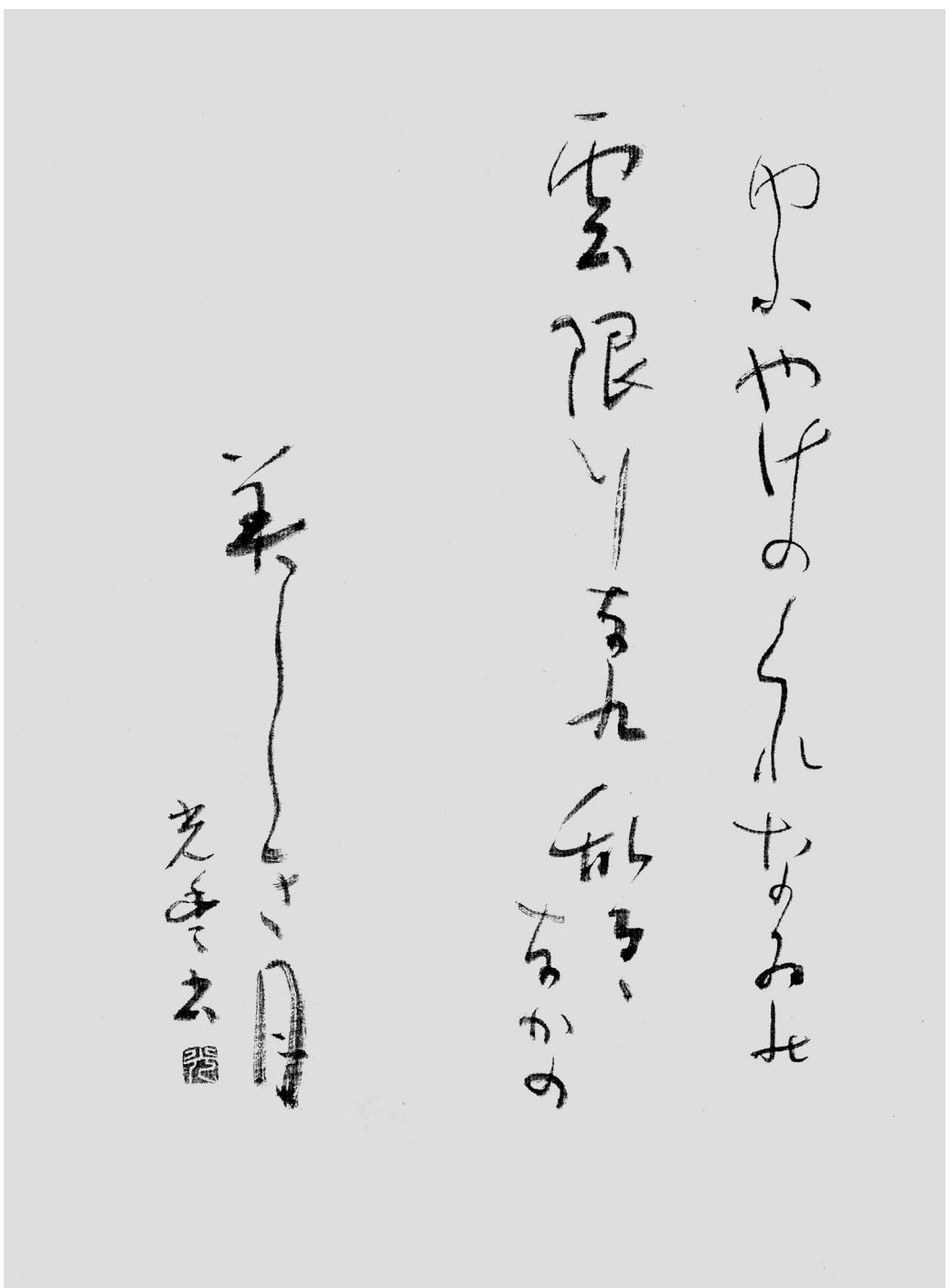


1. 隨意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

## 隨 意 部 參 考

絹 村 光 豊 先 生 書

夕焼のくれなる雲限りなく乱る中の美しき月  
ゆふやけのくれなる能雲限り奈九乱る、奈かの美しき月  
(与謝野晶子)



1. 隨意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は460円

# 硬筆部課題参考 (十一月二十二日締切)

稻畠 瞳穂 先生書

石原 春香 先生書

課題2 (初段格以下)

古松植ゑならべて、萱ぶきの小堂。  
岩の上に造りかけて殊勝の土地なり。  
石山の石より白し秋の風

課題1 (初段以上)

京都の郊外は美しいところが多い。  
とりわけ嵯峨の静かな寂びが私は  
最も好きである。祇王寺のなかなぞは、  
静けさの音が降つてゐる。  
静けさの音が降つてゐる。

正教授 創作部門 (自運作品、自由形式、硬筆用紙使用) で出品。二名の審査員による合計点数で優秀作品掲載。審査料一〇二〇円

課題1 (初段以上)

京都の郊外は美しいところが多い。  
とりわけ嵯峨の静かな寂びが私は  
最も好きである。祇王寺のなかなぞは、  
静けさの音が降つてゐる。

「嵯峨と淀川堤」川端康成

♦注意

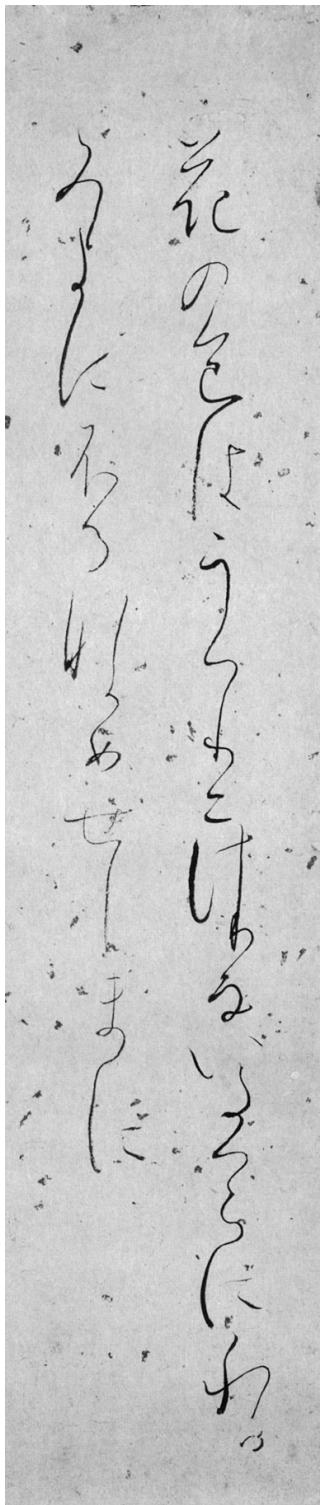
- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。(①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新会員は無料・会員外は四六〇円昇試規定は裏表紙を参照のこと。

課題2 (初段格以下)  
古松植ゑならべて、萱ぶきの小堂、  
岩の上に造りかけて殊勝の土地なり。  
石山の石より白し秋の風  
「奥のほそ道」那谷寺 芭蕉

# 研究部課題

(十一月二十二日締切)

(課題)



## ▽注意

- (1) 半切縦に臨書する。
- (2) 構成は原帖どおり。
- (3) 落款は左余白に「友石臨」と書き入れること。雅印は無用。  
(出品者の本名又は雅号を書き入れた作品は不可)

## ▽出品要項

- (1) 資格＝推薦、準推薦、推薦格合格者（漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また同人、準同人も歓迎）
- (2) 締切＝十一月二十二日必着
- (3) 発表＝書道一月号誌上
- (4) 出品料＝九四〇円同封
- (5) 出品方法

ア、出品は一人一点とする。  
イ、私製の出品票（縦10cm×横5cm）を作品の左下に貼付。

のりしろ	
研究部	
11月22日締切	
10センチ	フリガナ (姓名(号))
	(支部名)
5センチ	

## （出典）『筋切』

花の色はうつりにけりないたづらにわが河利奈多和可  
みよふるながめせしまに